



## 東山の緑（と赤茶色）を望む

学生部長 野口 祐子

東山が変だ！と気付いたのは7月17日、祇園祭の山鉦巡行の日だった。激しく降り続いた梅雨が一気に明けて、とたんに35度の猛暑となったその日、比叡山を仰ぐと、その中腹から大文字山にかけて、点々と茶色いものが混じっている。木が枯れている！動揺した私は、週明けのキャンパスで高原光教授（森林植生学）を捕まえて、それが「ナラ枯れ」であることを教えてもらった。

赤茶色の点は日が経つにつれてどんどん広がっていく。もう東山はまだら模様だ。京都の景観に大きな価値を与えてきた東山の姿が変わろうとしている。あせった私は、府立植物園名誉園長で本学客員教授の松谷茂氏も捕まえて尋ねてみた。様々な対策が行われているが、今のところ被害拡大を止める有効な手だてはないとのことだった。だが、その際に松谷氏から「新しい木がまた生えてきますよ」とおおらかな言葉が返ってきて、私ははっとした。そうだ、木はまた生える。山の姿が永遠に一定でなければならぬわけではないのだ。

改めて考えてみれば、東山は江戸時代から明治へ社会が変動する時も、最近の数十年の間にも大きくその相貌を変えてきたのだった。本学名誉教授の水本邦彦氏による『草山の語る近世』（山川出版社、2003）にもあるように、近世後期の東山は、比叡山から南禅寺辺りまでは「樹木のない柴草山」であり、「それ以南の社寺の背後には立派な松林や杉・楓などの社寺林がみられた」（35ページ）。当時はどの里山もふもとの農民が燃料や田畑の肥やしとして絶えず木々や草を刈ることによって維持されていた。そしてそんなやせ地でも育つアカマツ林が東山のイメージとして定着していった。中嶋節子氏によれば（加藤哲弘他編『東山／京都風景論』昭和堂、2006、128-153ページ）、明治になって東山に連なる社寺林が国に上知される前に乱伐された後も、やはり初めはアカマツ林となった。「赤い幹と薄い緑の葉からなる明るい山」として絵にも描かれた東山が、シイなどを主とした濃い緑の鬱蒼とした照葉樹林に変わっていったのは、高原教授によれば昭和30年代の燃料革命以降、人の手が入らなくなったことが大きな要因だった。東山の自然景観にはいつの世も人間の力が働いてきたのである。

丸太町の鴨川西岸には江戸時代後期に頼山陽が結んだ藁葺きの庵「山紫水明処」が今も残る。彼が形容した東山の「山紫」なる姿は現在の姿とは異なっていただろう。山には、ここしばらく枯れ木が混じるとも、いずれは緑が復活する日が来る。東山はそうやってゆっくりと変化していくものなのだ、と自分に言い聞かせている。

なお、12月18日（土）には府立総合資料館で府大・植物園・資料館連携シンポジウム「自然文化都市 京都——自然・人・歴史」を開催します。東山の景観も話題になります。皆様もこの機会に東山に目をやって、京都の自然・人・歴史に思いを馳せてみませんか？

（のぐち ゆうこ：文学部教授）

御紹介の「草山の語る近世」山川出版社2003.7刊（請求番号 210.08 || N || 52、652.1 || M）、「東山／京都風景論」昭和堂2006.5刊（請求番号 216.2 || K）は、2階閲覧室入口の新着図書コーナーに配架していますので、御利用ください。

## 言葉の力

図書館運営委員 吉 富 康 成

日々の生活に駆り立てられて、「酔生夢死」という「言葉」を嘔みしめることなく人生を終える。そんな生き方が少なくないと思う。そこで、あなたに問いかけてみたい。

あなたにとって「忘れられない言葉」、  
「心に響く言葉」は何ですか。

意識を表現する手段として、「言葉」が用いられていることを、当然のこのように思う。ただ、同じ「言葉」でも、人により解釈が分かれ、時により受けとめ方が変わるものである。「なからぎ」に拙文を書く機会をいただいたのは、これが2度目である。今回は、最近読んだ本の紹介から話を起こしてみよう。その本は、

NHK『その時歴史が動いた』編、“その時歴史が動いた 心に響く名言集”、三笠書房、2007。

である。NHKの番組作成のために集められた先人の「言葉」を頼りに、その人生に光をあてた本である。この本には、人生が凝縮した「言葉」が集められているように思える。例えば、

惜しまじな 君と民とのためならば 身  
は武蔵野の露と消ゆとも

の作者である皇女和宮（1846～1877年）は、幕末に、岩倉具視（1825～1883年）らが推し進めた「公武合体」という美名のもとに、許婚であった有栖川宮熾仁親王（1835～1895年）との婚約を破たんさせられ、十四代将軍 徳川家茂（1846～1866年）と政略結婚させられた。その徳川家茂は、第二次長州征伐

のために布陣した大阪城で薨去。享年21。徳川家茂の死後、皇女和宮は静寛院宮と名乗り、皇室との縁を頼りに、江戸城無血開城に尽力した。その時江戸に迫る官軍の東征大総督は、皮肉にも、許婚であった有栖川宮熾仁親王であった。明治10年に、静寛院宮は、箱根でひっそりとこの世を去る。享年32。皇女和宮が徳川家茂と結婚していなければ、江戸城無血開城は実現せず、江戸は甚大な戦禍を被っていたかもしれない。皇女和宮の「決意の言葉」とその後の人生を思うにつけ、東京スカイツリーの高さを634（むさし）mとした人の無神経さに落胆を覚える。

「言葉」が輝くのは、それまでの人生が凝縮しているからだけでなく、その後の人生が、その「言葉」に秘められた「信義」の証となっているからだと思う。

次に、この本に掲載されている諸葛亮孔明（181～234年）の「家訓」を紹介しよう。

優れた人は静かに身を修め、徳を養う。  
無欲でなければ志は立たず、おだやかでなければ道は遠い。  
学問は静から、才能は学から生まれる。  
学ぶことで才能は開花する。  
志がなければ学問の完成はない。

諸葛亮孔明は、中国の『三国志』に登場する英傑である。曹操（155～220年）の残虐行為に義憤を感じ、曹操の興した魏に抗するため、劉備（161～223年）、そして、その子 劉禪（207～271年）に宰相として仕え、戦場で病没した。この家訓は、子孫が暮らす浙江省に今も伝えられている。死後1800年近くたった今もなお脈々と「志」が伝えられている。NHKの本では、「民衆のために理想の国家づくりを目指した」と評されている。

この家訓は、時を超え、人種、民族、文化、そして、宗教をも超越して、「心に響く言葉」だと思う。特に、「志がなければ学問の完成はない」の一節は、「学問」を他の「言葉」、たとえば、「勉学」、「就職活動」、「仕事」、「研究」、「外交交渉」、「社会貢献」、「市民のための行政」、「組織の活性化」、「苦境からの脱出」、などと置き換えれば、多くの人に当てはまる。

この諸葛亮孔明を「三顧の礼」で迎えたのが劉備である。劉備は、人間としての魅力に富んだ英雄であったと伝えられている。その「言葉」として、NHKが選んだのは、

大業をなすには、  
なにより人をもって本となす。  
今、自分を慕ってきてくれている人々を、  
むざむざと見捨てて行けるか。

である。曹操の大軍から逃げる際に、数十万の民衆が劉備を慕い、追ってきた。劉備たちは難民をかばい行軍するため、思うように進めない。その時、難民を見捨てても自分たちが無事逃げのびるべきだと進言する部下に、劉備が即座に答えたのが、この「言葉」と伝えられている。「リーダーの心得」として、時代を超えて、「息づく言葉」ではなかろうか。「民無信不立」（人民に信頼されなければ安定しない）（孔子（紀元前551～479年））という「言葉」（論語より）がある。これは、孔子が弟子に、政治の要諦について問われた際に、「食」、「兵」、「信」の中で、「信」が一番大切だと答えた一節である。「信」がなければ、政治に限らず、社会生活、家庭生活もうまくいくはずはない。孟子（紀元前372～289年）も、「天の時は地の利に如かず。地の利は人の和に如かず。」と述べている。「人の和」には、「信頼」関係が必要である。

ここからは、NHKの本から暫し離れて、「言葉」にちなんだ話を進めてみよう。「言

葉」に魅力を感じられる人物が少ないと思う。すぐに、名前を挙げられるのは、与謝野馨、石原慎太郎、くらいである。与謝野馨は、与謝野鉄幹・晶子の孫、石原慎太郎は作家でもある。二人とも、「言葉」に縁深い。また、私が直接ご縁のあった方で、家族以外に、その「言葉」に魅力を感じた方が、数名おられる。そして、魅力の源泉は、その生き方に裏打ちされた「意識」の「崇高さ」、「清々しさ」にあるように思える。

「言葉」は、その源である「意識」の状況を表しているので、「言葉」に響きがない場合には、「意識」に輝く力がないのだと思う。孔子は、政治の要諦として、「食」、「兵」、「信」の中で、「信」が一番大切だと答えている。今の風潮としては、「信」は、選挙が近づいてから投票までは大切、とされているようにさえ思える。人を束ねる役割を担う者は、「信」と「言葉」を重んじる必要がある。毎年3万人以上の自殺、子殺し、親殺し、通り魔殺人、高齢者の所在不明、を聞くにつけ、日本が壊れてきたと思う。日本を誇れる国にするには、「信」が大切であることを、政治に限らず、社会生活、家庭生活、で確かめる「所作」を日々愚直に行うことが肝要だと思う。

人類は、500万年有余の歴史を蓄えてきた。世界四大文明のうち、最古の「メソポタミア文明」成立からは5500年の歳月が流れている。多くの先人の「言葉」が、その「生き様」の証として残されている。一生で直接体験して会得できる事柄は、先人の蓄積と比すれば、あまりに少ない。「温故知新」という「言葉」にもあるように、虚心坦懐になれば、先人の「言葉」や「生き様」、「死に様」は、人生の道標となりえる。今回紹介したNHKの本は、そのきっかけになりえる力作だと思う。

（よしとみ やすなり）

：生命環境科学研究科教授）



## 平成22年度蔵書整理報告



8月12日(木)～31日(火)の間、2階閲覧室を休室して蔵書点検を実施しました。期間中は皆様にはご不便をおかけしました。

ハンディターミナル4台をフル稼働させ、今回初めて図書館所蔵分を1回の蔵書点検期間内に点検することができました。(点検対象：約157,000冊)その結果、配架間違いの図書も多数発見され、昨年度より不明図書が減少しています。(22年度蔵書点検時不明冊数-42冊  
21年度-58冊)

蔵書点検とは、①1冊ずつ図書に貼ってあるバーコードをハンディターミナルに読み込む②ハンディターミナルに読み込んだデータを図書館コンピュータのデータと照合して、不明図書の一覧表を作成し、配架間違い図書は正しい書架に戻す③行方不明の図書を求めて図書館内のあらゆる所を探索する作業のことです。

蔵書点検対象の範囲が狭いと、点検対象範囲外の書架に間違っ戻されている図書は“不明”扱いになってしまいます。もちろん、館内を探索して発見に努めますが、府大図書館のように構成員全員が全ての書庫に自由に入室できる場合、できるだけ点検対象範囲を広げた方が不明図書は減少します。

また、今回の蔵書整理期間中に点検作業と並行して、長年の懸案事項であった東書庫Ⅱ資料の配置替えを行いました。これまで図書と雑誌が混然と置かれていましたが、①洋雑誌②和雑誌③図書の順に書架を分けました。

他の書庫と同じように、雑誌はタイトルのアルファベット順、図書は請求記号順に並べています。以前に比べると格段に探し易くなっています。



## ‘10 オープンキャンパス開催される

7月24日(土)及び25日(日)の両日、オープンキャンパスが開催されました。

両日とも猛暑でしたが、北は北海道から南は沖縄までの42都道府県から、3,135人(うち受験生本人2,079人)の参加があり、過去最高となりました。

図書館も両日とも午前10時から午後4時まで2階閲覧室を開放し、多くの方に見学していただきました。来館者は、24日が368人(うち高校生等275人)、25日が330人(うち高校生等235人)の合計698人(うち高校生等510人)でした。

例年どおり人文・社会科学系の参加者(24日)の来館が自然科学系の参加者(25日)に比べて多かったのが特徴です。参加者の中には、閲覧室の書架を興味深く見て廻ったり、座席で熱心に読書をする姿も見られました。

また、質問の多くは、図書館の蔵書数に関するものでした。

今後とも来館される方々に、図書館が魅力ある施設であると感じていただけるよう、図書館職員一同、一層努力していきたいと考えています。

図書館日誌

平成22年度  
第1回 図書館運営委員会開催報告

平成22年度第1回の附属図書館運営委員会が6月14日(月)に本館第1会議室で開催されました。その概要は、次のとおりです。

1 協議事項

- (1) 各ワーキンググループ(WG)の継続とメンバーの確認について

「自己評価・あり方検討WG」、「選書WG」、「電子ジャーナルWG」の3つの枠組みの継続を確認し、各WGのメンバーが決定された。

- (2) 平成21年度の決算及び事業報告について

新規図書購入費等の予算が厳しい中で図書購入を行ったこと、ホームページ画面を更新したこと、3回開催された運営委員会における「北山文化環境ゾーン構想に係る施設整備について」の協議経過等が報告され、承認された。

なお、館長から「北山文化環境ゾーン構想に係る施設整備について」の計画が具体化されてくれば運営委員会で議論したいとの説明があった。

- (3) 平成22年度予算について

財政状況が厳しい中、昨年度とほぼ同じ予算の確保ができたこと、また、特別備品費として機関リポジトリ関連の予算が計上され、今後構築に向けての検討を行い、具体化してくれば運営委員会に諮りたいとの説明があり、承認された。

2 報告事項

- (1) 学習基本図書の購入リスト提出依頼について

前年度末の運営委員会で承認を受け、4月に依頼済であるとの報告がされた。

- (2) 平成21年度選書方針に基づく資料収集について

図書の購入冊数等の状況、蔵書状況等が報告された。

- (3) 電子ジャーナルについて

現在の導入状況等についての報告がされた。

- (4) 図書館利用統計について

平成21年度の貸出冊数や複写業務等の利用状況についての報告がされた。

平成22年度 図書館運営委員会委員名簿

所 属	職 名	委員氏名	所属WG名
附属図書館	館 長 (生命環境科学研究科教授)	牛田 一成	
文 学 部	教 授	山崎 福之	電子ジャーナル
	教 授	菅山 謙正	選書
	准教授	上島 亨	自己評価・あり方検討
公共政策学部	教 授	大島 和夫	自己評価・あり方検討
	教 授	津崎 哲雄	選書
	准教授	佐野 亘	電子ジャーナル
生命環境科学研究科	准教授	沼田 宗典	選書
	教 授	宮崎 猛	自己評価・あり方検討
	教 授	佐藤 健司	電子ジャーナル
	教 授	吉富 康成	電子ジャーナル
	教 授	尾崎 明仁	自己評価・あり方検討
	教 授	松村 和樹	選書
附属図書館	事務長	西川 昌良	
	資料主任	久保 直弘	

カレンダー

開館時間等

9:00~ 21:00	9:00~ 17:00	休館 土日祝 年始・年度末
----------------	----------------	---------------------

☆閉館時の図書の返却は、図書館西側(喫煙コーナー付近)の返却ポストをご利用ください。

2010年10月							2010年11月							2010年12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2		1	2	3	4	5	6				1	2	3	4
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30					26	27	28	29	30	31	
31																				

- ★10/1(金)から通常開館(21時閉館)  
★10/8(金) 夏休み貸出図書返却期限

★11/12(金) 関西六公立総合競技大会で全学休講のため17時閉館

★12/13(月)から冬休み長期貸出実施返却期限 1/18(火)

- ★12/27(月) 冬期休業のため17時閉館  
★12/28(火)~1/4(火) 年末年始休館  
★年始は1/5(水)から開館  
(~1/7(金)まで17時閉館)